



衣替えの季節を迎え、生徒の制服も爽やかになりました。5月の本校は「前期人権・同和教育月間」でした。前号で「自分や友だちの『個性』や『良さ』に光を当て、互いに尊重し合える関係づくりを考えていく」とお伝えしましたが、この一ヶ月間、生徒は社会にある様々な課題や、身近な「違い」について深く学ぶ貴重な機会をもちました。誰もが自分らしく、安心して過ごせる学校をみんなの手でつくる。そのために、正しい知識を得て一歩踏み出した生徒の様子をご紹介します。



「正しく知り、共にある」ために～人権月間の学びから～



この人権月間中、本校では二つの大きな出会いと学びの場がありました。

一つは、「吃音(きつおん)」について正しく学ぶための講演会です。言葉がなめらかに出ない状態について、それは決して直すべき欠点などではなく、「その人の話し方の一つとして自然なもの」であり「自分らしく話すためのスタイル」なのだという、大切な視点を学びました。もう一つは、「ハンセン病元患者の

方の体験」をもとにした人権学習です。かつて国が定めた誤った隔離政策によって、いわれの無い差別や偏見を経験された方の苦悩や生き方に触れ、「差別をしないために、今、自分たちは何をすべきか」を真剣に考えました。

「吃音について、小学生の頃から学習していたので理解していると思っていましたが、忘れていたり知らなかったこともあって、『理解しているつもり』だけではいけないと思いました。周りのサポートや理解があれば、吃音の人でも自分らしく、吃音を隠してつらくなったりせず過ごせると思います。」

「ハンセン病の歴史を学び、隔離政策のせいで、桜井さんのように両親と別れてつらい思いをした人がたくさんいると思うと本当に悲しくなりました。これからは、偏見や思い込みで差別をするのではなく、正しいことをしっかりと知って、相手に寄り添えるようになりたいです。」



差別や偏見の根底にあるのは「無知」と、分かった気になる「無関心」です。正しい知識を持ち、「人とは違う立場に立って考える」という想像力を働かせること。自分で「これは素晴らしい、自分もやろう」「これはおかしい、自分を変えよう」と決めて動くことこそが、本校の目指

す「自律」の姿です。人権月間という期間はひと区切りを迎えますが、ここで得た学びを一中の「当たり前」へと根づかせていきたいと思ひます。

一歩先へ、高みへ進む生徒の姿

人権月間で「相手に寄り添う心」を育む生徒は、学校生活の様々な場面でも、前向きなエネルギーを発揮しています。初夏の風吹く校内の様子をいくつかご紹介します。

階段を彩るエールと、響く歌声 ～いざ、中体連へ～

3年生にとって最後の大会となる中体連に向け、学校全体で応援練習に熱が入っています。ふと校舎の階段に目をやると、そこには「えがお」「勝利」「仲間」といった、温かく力強い応援メッセージがずらりと飾られており、通るたびに心が奮い立ちます。仲間を認め、支え合おうとする優しさと闘志が、校舎中に満ち溢れています。



教育実習生の先生方から学ぶ ～人生のヒント～



現在、本校には教育実習の先生方が来ており、授業や生活を共にしています。先生方からは、教科の学びだけでなく、「中学校当時の思い出」から「進路決定のきっかけ」「受験勉強の乗り越え方」「現在の大学での熱心な研究内容」にいたるまで、本当にたくさんの貴重なお話を聞かせていただいています。

一歩先を行く先輩としての生きた言葉は、生徒にとって、自分の未来や人生を想像するための大きな刺激となり、素晴らしい影響を与えてくれています。

変化に寄り添い、共に歩む

5月、新しい環境の中で「もっと高みへ」「新たな自分」と瑞々しい意欲を見せてくれた生徒。その前向きな挑戦が、確かな「心の深まり」や、部活動・学習への情熱へとつながっているのを感じます。

一方で、季節の変わり目であり、熱心に取り組むからこそ、6月は心身ともにエネルギーを多く消費する時期でもあります。充実した学校生活の裏で、生徒が気づかないうちに小さな疲れを溜め込んでしまうことも少なくありません。

学校では、一人ひとりの表情や変化を丁寧に見守り、話に耳を傾けながら、一步一步を共に歩んでまいりたいと考えております。ご家庭におかれましても、お子さんの様子や体調面で気になることがございましたら、いつでもお気軽にご連絡ください。今月もよろしくお願ひいたします。

